

令和3年度 丹波縄文の森塾9日目（12月11日）

12月の縄文塾では、年の瀬のこの時期にふさわしく、お餅つきや正月に飾るしめ縄づくりなどを行いました。

午前のプログラムでは、二つのグループに分かれて、お餅つきとシイタケ原木の枝打ちを交代で体験しました。

お餅つきでは、昔ながらの杵と臼を使いました。餅米は10月に刈り取り11月に脱穀したものです。蒸し器で蒸した餅米を臼に移し、杵でこね、ある程度米粒が潰れたらつき始めます。途中、もう一人が合いの手でお餅をたたむように中心に寄せます。つき手と合いの手の息を合わせるのが大変。はじめは指導員やサポーターにしてもらいましたが、最後の仕上げは、塾生が「杵は振り上げたあとその重さで自然に落とす感じで。」と教えてもらいながら行いました。

サポーターと一緒に、つき上がったお餅を切り取り、丸めました。目の前にお餅ができあがると早く食べたいなあという食欲が湧いてきます。

シイタケ原木の枝打ちでは、クヌギやコナラなどドングリの木の枝をノコギリで切り落とします。まず藤本アドバイザーからノコギリの使い方について説明を受けた後、班毎に枝打ちを開始。最初は中々ノコギリを使いこなせない塾生も、サポーターの指導を受けながら徐々にうまく使えるようになりました。それでも小学生の力で太い枝を切り落とすのは大変です。頑張ってノコギリを引く役、そして木を押さえる役など、交代しながら力を合わせて沢山の枝を切り落としました。来年1月に枝打ちした木の幹を1メートルほどの長さに切り揃え、2月にはそこにシイタケ菌を植え付けることにしています。

昼食はお餅と豚汁。きな粉餅、あん餅、大根おろし餅など、つきたてのお餅はどれも格別ですが、塾生の一番人気はきなこ餅でした。具沢山の豚汁もとても美味しく、大きな鍋一杯の豚汁がすぐになくなってしまいました。

午後は、11月に脱穀した後の稲わらを使ってのしめ縄を作りです。サポーターの杉本さんが編んでメガネにしてくれたもの、稲穂、松葉、ウラジロ、ミカン、水引などを飾り付けてしめ縄を作りました。小学生にはなかなか難しい作業ですが、杉本さんの丁寧な指導のもと、みんな熱心に作業して完成させました。お正月の玄関に自作のしめ縄を飾るのも貴重な体験です。



杵での餅つき



ついたお餅を丸めます。



昼食(つきたてのお餅と豚汁)



シイタケ原木の枝打ち



しめ縄づくり



出来上がったしめ縄を持って記念写真